

## 第1セッション

## 富山県朝日町の取り組み

富山県朝日町  
住民・子ども課 課長  
加藤 優志



## 朝日町の紹介

朝日町は、富山県の東の端、新潟県との県境にあり海拔0メートルから標高3000メートル級の北アルプスに至る自然に恵まれた人口1万1000人弱の町です。桜の咲く時期に、残雪の北アルプスを背景に約1200メートルに渡って咲き誇る約280本のソメイヨシノの桜並木と早咲きのチューリップと菜の花が奏でる4つの景色が一度に楽しめる、「あさひ舟川『春の四重奏』」や日本の渚100選に選ばれ、ヒスイの原石を拾うことができるヒスイ海岸などが観光地として有名です。「あさひ舟川『春の四重奏』」は、開花の重なるタイミングが難しく奇跡の景色と言われ、中学一年用の科学の教科書にも教材として採用されております。



舟川べり「春の四重奏」



ヒスイ海岸

## 富山県朝日町の子育て支援

第5次朝日町総合計画において、基本テーマの1つを子育て応援日本一のまちとしています。事業として、「あいのトキめき出生祝福事業」を行っており、これは子どもの誕生を祝福し、祝い金を支給する事業です。やはり出産や子育ての中では、経済的な支援が必要になると思っております。朝日町では、第1子、第2子は10万円、第3子、第4子は20万円、第5子以降は40万円の誕生祝金を支給しております。

**子育て・教育** 子育て応援日本一のまち

- = あいのトキめき出生祝福事業 →
  - 『誕生祝い金』
  - ◎次代を担う子どもの誕生を祝福し、その健全な育成を願い、誕生祝福金を支給します。
    - ◆第1子・第2子 10万円
    - ◆第3子・第4子 20万円
    - ◆第5子～ 40万円
- = 木製品 →
  - ◎朝日町に出生届を提出された、町内・町外・県外の方へ、朝日町産木材を使用した、椅子又は積み木をプレゼントします。
- = あさひDE育てアブリ =
  - 子育て世代の多くが利用するスマートフォンを活用した子育てアブリ
  - ◎アブリダウンロードすると母子健康手帳と併用して
    - ◆健康記録
    - ◆成長記録補完
    - ◆予防接種のスケジュール管理 等 ができます。
  - ◎ほかにも、町からの子育て情報発信など、妊娠から出産・育児までをフルサポート。

次に、「おうちで子育て応援事業」を行っております。保護者をはじめ祖父母などの協力により、ご家庭で子育てをする世帯を経済的に応援する事業です。生後6か月経過から2歳の誕生日までは月額6万円、2歳誕生日の翌月から3歳の誕生日までは月額3万円を支給しており、最大で150万円を支給しております。

利用者は、祖父母が多いのではと想定していましたが、母親利用が大半です。平成29年度に開始した事業ですが、「子どもが小さい時はもう少し自分で育てたかったのでこの制度はありがたい」「祖父母に子守りを頼むのが気兼ねだったが気持ちが楽になった」という声があるなど、メンタル面においても好評を得ております。また、ご家庭での育児が増えるので、保育所への入所が少なくなり、人手不足などの保育士確保対策にも役立っております。

次に、子ども医療費助成があります。平成18年度に富山県内で最初に、助成の対象を小学生までに拡大し、平成23年度で中学生まで、さらに平成28年度からは富山県内で最初に高校生世代まで拡大しております。常に先駆けて拡大をすることで、富山県内他の市町村も朝日町を追いかける形となっております。

次に、保育所から小中学校までの副食費、給食費の全額助成があります。平成29年度に中学校の給食を全額助成し、令和2年度にはコロナ交付金を活用し小学校も全額助成、今年度からは一般財源を投入しております。保育所についても、平成30年度から副食費を全額助成するなど、朝日町では保育所から中学生までの12年間、0円で給食を食べることが可能です。

**子育て・教育** 富山県下No.1の子育て支援！全力でサポート

- = おうちで子育て応援事業 →
  - ◎家庭で育児をする世帯に対し、応援金を支給します。（※支給要件あり）
    - ◆生後6か月経過から2歳誕生日まで : 6万円／月
    - ◆2歳誕生日の翌月から3歳誕生日まで : 3万円／月
- = 子ども医療費助成 =
  - 0歳から高校生世代まで医療費（保険診療医療費）は無料
  - 0歳児から高校生世代まで、医療機関への入院、通院の保険診療の自己負担分を助成しています。
    - ☆令和4年4月から富山県内全域で窓口負担が無料になりました。
- = 保育料軽減・待機児童ゼロ =
  - 3歳児～5歳児の副食費（おかず代）が無料
  - 保育料は、 ◆第2子 : 半額
  - ※同時入所の有無は ◆第3子以降 : 無料
  - 問い合わせ : ☆延長保育料 : 無料（21時まで）
- = 小・中学校給食費全額助成 =
  - 朝日町立小・中学校に通う児童生徒の給食費を全額助成しています。

さらに、朝日町では共助型に注目して新しい事業として、住民がマイカー利用のついでに近所の方と相乗りして住民の移動を助ける「ノッカル」という公共交通サービスを構築しております。

これは、事業者協力型自家用有償旅客運送の全国第1号として、法律に基づいた制度で令和3年から運行を開始しました。子どもの移動課題を解決するため、子ども版の「こどもノッカル」も昨年10月に運行開始しております。視察が多く、最近では週に1度から2度、年間では50から100件の視察があります。

**共助型移動サービス『ノッカルあさひまち』**

- ◎住民の共助が支える新しい公共交通です。自分のマイカーでの外出ついでに、ご近所さんを乗せつける仕組み。  
「乗せてくれてありがとう」「こちらこそ楽しい会話をありがとうございました」、お互いさま。
- ◎利用料 600円／回（相乗り400円）  
・事業者協力型自家用有償旅客運送の全国第1号として、令和3年10月より始動。  
・ドライバーは住民、車両は住民のマイカー
- 子どもの送迎課題に焦点を当てた『こどもノッカル』も令和4年10月スタート！！

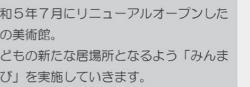


もう1つの共助型の学びプラットホーム「みんまなび」です。学校教育では学ぶことのできない学びの場をLINEを活用して提供するサービスです。地域住民がサポーターとなり、自身の持つスキルや知識を子どもたちに教える場や居場所づくりとして開催をしております。これらのサービスは、人が昔から根底に持っているお互い様という気持ちのもとに成り立ち、国や他の自治体の皆様から、また民間からも注目されています。

その他に、小学校1年生の体操服のプレゼント、タブレット型端末の無線LANの整備、保・小・中一貫教育といった取り組みもあります。朝日町では、妊娠、出産、乳幼児から小中学生、高校生までのライフステージに応じた切れ目のないトータルの形で支援を行うことにより、子育てを全力でサポートし、子育て応援日本一のまちを目指して、明日を担う子どもたちを大切に育んでいきたいと考えております。

**共助型学びのプラットホーム『みんまなび』**

- ◎学校教育では学ぶことのできない学びの場を提供するサービスで、LINEを活用し、コミュニティで創る学びあいプラットホームです。
- ◎地域・企業・町に縁のある方がサポーターとなって、自分の持つスキルや知識を子どもたちに教える場として開催しています。



## 第1セッション

## 大分県杵築市の取り組み

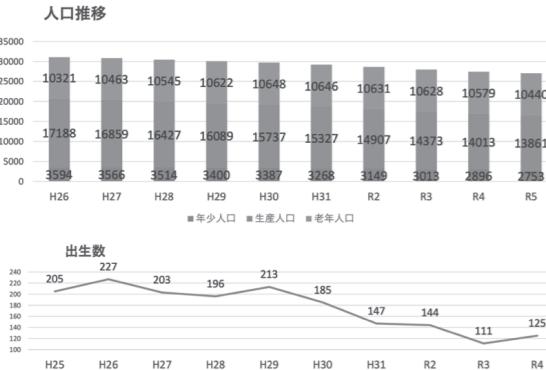
大分県杵築市  
福祉事務所子ども福祉係 係長  
岩尾 基広



## 杵築市の人団推移

当市は九州の国東半島の付け根に位置し、平成17年に1市1町1村が合併し新市としてスタートしました。令和5年10月末の人口は2万6761人、高齢化率は38.9パーセントです。また令和4年度の年間出生数は125人です。年々人口が減少していく中、平成29年度までは3万人強の人口でしたが、平成30年度は2万9772人と3万人を下回り、以後も人口減少が進んでいる状況です。出生数についても、平成29年度までは200人程度も推移しておりましたが、平成30年度は200人を下回り、以後減少が進んでいます。本年度は100人を下回るのではないかと危惧しているところです。

## 杵築市の人団推移



## 杵築市の子育て支援

当市の子育て支援施策の体系ですが、まず基本的な子育て支援として、出産や子育てしやすい環境作りに取り組んでいます。妊娠期から出産・育児までの長い期間を、こども家庭センター「ハートペアルーム」が中心となり不妊治療助成や各種健診、乳幼児訪問など関係機関と連携を図りながら、きめ細やかな支援で支えることで、子育て期間中の不安の解消などに努めています。

また、子育て世代が安心して仕事ができるよう、こども園・保育所等の充実、休日保育や病児保育、放課後児童クラブの充実を図り、様々な就労形態のご家庭にも対応できるよう子育て支援の環境を整えています。

併せて、子育て世帯の経済的な負担の軽減を図るために、出産子育て応援交付金、保育料の完全無償化、小中学校の入

学祝金の支給、高校生までの医療費の自己負担分無償化を行っています。

次に丁寧な子育て支援として、悩みを抱えた家庭に寄り添った伴走型の支援を行うため、こども家庭センター「ハートペアルーム」が中心となり、関係機関や団体と連携を図りながら、こどもの居場所事業や学習支援事業などの事業を行っています。

## こども家庭センター「ハートペアルーム」

杵築市は平成28年4月に子育て世代包括支援センター「ハートペアルーム」を開設し、これまで広く子育ての悩みなどの相談や支援などを行っていました。また、平成30年には子ども家庭総合支援拠点を設置し、母子保健と児童福祉の相談が一体的に行える体制にしていました。今年4月、これまでハートペアルーム内ではありましたが2課で行っていた母子保健・児童福祉業務を同一係で行っていく体制とし、こども家庭センターの設置に至りました。

母子手帳交付時におけるハイリスククリーニングや新生児訪問等などを同一の管轄で行うことによりハイリスク者の早期把握や情報がスムーズに共有されるようになり、指示命令系統のスリム化により様々な事業の対応を迅速化することができるようになりました。

また、近年子どもの貧困や児童虐待など困りごとを抱えた家庭が増えている中、子どもの自立に向けた取り組みとして「子どもの居場所」へ繋ぎ運営団体と連携を密にしながら、子どもの支援を行っています

## 杵築市子育て世代包括支援センター「ハートペアルーム」オープン!

妊娠、出産、産後、育児や子育てについての悩みごと…ひとりで抱えずご相談ください!  
保健師・助産師・社会福祉士等の専門スタッフが相談を受け、関係機関と協力してサポートを行います。

4月1日から、これまで別々の場所にあった妊娠出産期と子育て期のそれぞれの相談・サポートを行う部署が一か所に集まり、杵築市子育て世代包括支援センター「ハートペアルーム」がオープンしました。名称には、相談・サポートを通じてみなさんと心つながれる場所でありたいという想いが込められています。

妊娠期から子育て期まで切れ目のない、きめ細やかな相談・支援を行っていきます。どうぞ、お気軽にご相談ください。

【場所】 健康推進館(杵築市猪尾956番地)  
【時間】 月～金曜日(祝日・年末年始を除く)8時30分～17時  
【電話番号】 0978-64-2525  
【体制】 健康長寿あんしん課 子ども健康係  
子ども子育て支援課 子ども支援係



○杵築市子育て世代包括支援センター(0978-64-2525)

## 子どもの居場所b&amp;gきつき

子どもの居場所b&gきつき(以下b&gきつき)は、生活困窮世帯など困りごとを抱える家庭の小中学生を対象とし、将来自立できる力の習得を目的に、こども食堂だけの機能ではカバーすることのできない生活習慣の形成支援などの実施をしています。また、子どもの状況を市や児童相談所へ随時フィードバックすることにより、家庭への必要な支援へつなげています。

b&gきつきの特色として、児童館と放課後児童クラブが隣接している複合型であり、だれでも自由に行き来でき、支援を必要とする子どもたちが分け隔てなく利用できるようになっています。

b&gきつきの概要ですが、困りごとを抱える家庭の児童を対象に、平日の16時から21時にかけて開設していますが、生活困窮の家庭でなくても、保護者が仕事で子どもだけになる場合も利用料を払えば利用できるようにしています。

職員体制は8名の運営スタッフのうち常時3名と調理スタッフ、学習支援スタッフで対応しています。具体的な支援の内容ですが、子どもたちが手作りのご飯を食べ、会話、遊びを楽しみ、スタッフや友達、地域の方々との関わりの中で社会性を育み、歯磨きや体を洗うなどの基本的生活習慣を身につけたり、学校の宿題をする習慣をつけるなどの学習支援の定着を図ることを目的としています。学習支援については、市内に住む退職教員や、大分大学の学生、市内で音楽教室をしている地域の方々がボランティアスタッフとして、宿題のサポートや英語、音楽指導にあたり、さらにタブレットを使ったプログラミング教室なども実施しています。

## 当市の課題について

少子化が急速に進む中であります。困りごとを抱えていたり支援が必要としているケース数は、そんなに変わっていないという状況です。支援の在り方についても、発達障がいの子への支援など、支援の多様化に対応できるような職員の研修や職員の確保といった人材面での充実は必要と考えています。また専門機関へもつなげるという、受け皿の確保も必要になっている課題もあります。

## 「子どもの居場所b &amp; g きつき」について



(隣接する児童館)  
・児童館事業  
・放課後児童クラブ  
・休日保育  
・フォーミュラーサポートセンター事業  
などを実施

## 「子どもの居場所b &amp; g きつき」の概要

- ・開設時期 : 2019年4月
- ・対象児童 : 生活困窮世帯や問題を抱える家庭、市内全域の小学校・中学校に通う児童・生徒
- ・開設時間 : 平日 16時～21時
- ・利用児童の詳細
  - 生活困窮世帯
  - 発達障がい児
  - ネグレクト世帯
  - DV世帯
  - 孤食の児童
  - 不登校児童
  - その他
- ・保護者が仕事等で夜間不在の家庭
- ・クラブや塾等に通っており、一時帰宅するには自宅が遠い児童・生徒(送迎付き)
- ・実施内容 : 体験学習(かきかた・書道・音楽教室など)  
学習支援(宿題補助、プリント、タブレット実習の実施)  
基本的生活習慣の獲得(あいさつ・歯みがき・入浴・洗濯)  
世代間・地域間交流(中高校生、大学生、地域住民等)
- ・定員 : 1日あたり20名程度対応
- ・利用料金 : 1回300円(ひとり親家庭・住民税非課税世帯・就学援助受給世帯・生活保護世帯 免除)
- ・職員体制 : 運営スタッフ3名 調理スタッフ2名 学習支援スタッフ2~3名



## 第1セッション

## 鳥取県日吉津村の取り組み

鳥取県日吉津村  
福祉保健課 課長  
橋田 和久

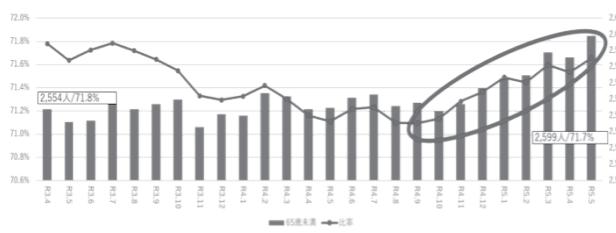


## 日吉津村の人口推移

日吉津村は鳥取県の西部にある鳥取県唯一の村です。近くに中国地方最高峰の大山、西に日野川、北に日本海と周囲を自然に囲まれており、10月末現在人口は3629人、世帯は1295世帯で、年間出生が35~40名程度と、鳥取県では唯一人口が増えている自治体です。公立の認定こども園は、昨年、従来保育所だった施設を認定こども園に移行し、新しい施設となりました。私立の小規模保育所は2か所あり、0歳から2歳までの保育を行っています。人口の推移としては、右肩上がりに増えてきている状況です。

偶然かもしれません、「ミライトひえづ」がオープン以降、人口が増えてきていると感じます。小学校やひえづこども園の児童数も増えてきており、特にこども園は、新しい施設に合わせて定員を120人から140人に増加しました。

&lt;65歳未満人口の推移（R3.4月以降）&gt;



## 第1セッション

## 鳥取県湯梨浜町の取り組み

鳥取県湯梨浜町  
子育て支援課 課長  
香川 佐織



## 湯梨浜町の紹介

鳥取県のほぼ中央に位置し、平成16年に羽合町と泊村、東郷町が合併して誕生した町です。町の中央には周囲約12キロの東郷湖があり、その湖底からは温泉が湧き出ています。全国に愛好者が多い「グラウンド・ゴルフ」の発祥地であり、町内には専用コースがあります。また、全国でも有数の産地である二十世紀梨をはじめ、ピオーネやシャインマスカット、メロン、スイカ、東郷湖で獲れるシジミなど、多くの特産品があります。湯梨浜町という名前は、「豊かな温泉」「特産の梨」「美しい日本海」という町の特色をイメージして名付けられました。

## 湯梨浜町の人口推移

全国的な問題でもありますが、人口が年々減少しているとともに、少子高齢化が進んでいます。近年、出生数は年間130人前後で推移しており、合計特殊出生率は、平均で1.9程度と全国平均、鳥取県平均を上回り、鳥取県中部地域の他の市町よりも高い結果となっています。

## 年齢別人口構成

年度	人口	15歳未満		15歳以上～65歳未満		65歳以上		備考
		人口	率	人口	率	人口	率	
平成22年	17,739	2,475	14.0%	10,568	59.6%	4,696	26.5%	
平成23年	17,689	2,472	14.0%	10,537	59.6%	4,680	26.5%	
平成24年	17,580	2,438	13.9%	10,444	59.4%	4,698	26.7%	
平成25年	17,486	2,413	13.8%	10,279	58.8%	4,794	27.4%	
平成26年	17,433	2,399	13.8%	10,091	57.9%	4,943	28.4%	
平成27年	17,364	2,368	13.6%	9,908	57.1%	5,088	29.3%	
平成28年	17,154	2,362	13.8%	9,688	56.5%	5,104	29.8%	
平成29年	17,024	2,304	13.5%	9,516	55.9%	5,204	30.6%	
平成30年	16,938	2,314	13.7%	9,414	55.6%	5,210	30.8%	
平成31年	16,856	2,292	13.6%	9,337	55.4%	5,227	31.0%	
令和2年	16,748	2,297	13.7%	9,165	54.7%	5,286	31.6%	
令和3年	16,674	2,264	13.6%	9,047	54.2%	5,363	32.2%	
令和4年	16,533	2,262	13.7%	8,901	53.8%	5,370	32.5%	
令和5年	16,394	2,260	13.8%	8,781	53.6%	5,353	32.6%	

※ 人口（平成22年～令和4年）は、住民基本台帳による。

## 湯梨浜町の子育て支援

妊娠前の時期には、医療保険が適用される不妊治療も含めた「特定不妊治療」「人工授精」「不育症治療」について助成を行っており、特定不妊治療では、昨年度21人が治療を受け、11人が妊娠、出産に結びつきました。

妊娠が確認できた時期では、妊婦健診、産後健診、妊婦歯科検診の費用を公費負担しています。また、出産・子育て応援給付金事業により、妊娠、出産期の不安や悩みを軽減するため相談支援を行うほか、妊娠、出産の各時期に経済的支援も行っています。

出産後の時期では、出産後約1か月以内に保健師が新生児訪問を行っています。産後ケア事業や産前産後ホームヘルパー派遣制度もあるほか、乳幼児健診、虫歯予防教室や離乳食講習会、予防接種費の一部助成も実施しています。また、子育て支援センターを月曜日から金曜日まで毎日開設し、友達づくりや情報交換、保健師や栄養士等による専門相談を受けているほか、スマートフォン向け電子母子手帳を活用した子育て情報の発信やオンライン相談も実施しています。

多子世帯への支援としては、第3子以降の出生時に5万円、小学校入学時に3万円、中学校卒業時に3万円支給しています。

保育への支援では、保育料は概ね国基準の4割から6割の額を設定し、第3子以降の保育児童については無料、第2子については軽減しています。

また、家庭保育への支援として、生後8週間を超えて2歳になるまでの乳幼児を家庭で保育されている父や母、祖父母に対し月額3万円を支給しています。

さらに、子育てと就労の両立支援として、休日保育事業、病児・病後児保育、ファミリーサポートセンター事業も実施しているほか、チャイルドシートの無料貸出や子どもの医療費助成、3歳未満の子どもを養育している世帯へゴミ袋50枚の無料配布を行っています。

子育て支援策以外に、若い世代の方に湯梨浜町に住んでいただくための施策として「若者夫婦・子育て世代への住宅

取得費助成」等も実施しています。このような取り組みを進めてきた結果、合計特殊出生率はここ10年間の平均で1.9となっているほか、10年のうち5年は転出に比べて転入超過となりました。

湯梨浜町が誕生して以来、子育て支援策に積極的に取り組んできました。若い世代の妊娠、出産、子育ての希望を叶えることで、出生数を増やし人口の自然減を抑制する取り組みや、住みやすく魅力ある地域とすることで町内に人を呼び込み、若い世代の町外への流出を防ぎ、人口の社会増へ転換を図るような取り組みを進めるなか、子育て支援策と上手く噛み合ったことで、若者世帯の転入による社会動態が増となるなど、出生数の増加と維持につながっていると考えています。

乳児から高齢者まで健康でいつまでも元気に過ごせる「生涯活躍できる町」を推進するため、今後も様々な取り組みを進めていきます。

## 湯梨浜町 生涯活躍のまちの推進



## 第1セッション

## 保健師として今感じる、5つの課題

奈義町  
こども・長寿課 保健師  
立石 奈緒子



## 保健師として今感じる、5つの課題

## 1) メンタル面の支援

新生児訪問、乳幼児健診や、助産師の無料家庭訪問など、きめ細やかにお母さんたちに関わっているつもりではあります、メンタル面での支援がまだできていないところがあるのでないかと感じ、保健師同士でも話しています。現状、定期的なカウンセリングが必要なケースも見えてきます。子育ての悩みが母親のストレスとなり、精神的に不安定になると子どもにも影響を与えてしまいます。だからこそ、メンタル面の支援を考えていきたいです。

## 2) 外国人の方への支援

町内でもフィリピンやベトナムの方が子育てをしてくださっています。先日もベトナム人夫婦の支援をしてきましたが、私自身もベトナム語は全くわかりません。やはり言葉の壁や文化の違いは、翻訳アプリを使って説明しても、お互いに理解し合うのは本当に難しいです。言葉の壁や文化の違いを、支援する側がお互いに理解しやすくする方法を、今後どのようにすべきか考える必要があると感じています。

## 3) 居場所がないお母さんの支援

なぎチャイルドホームは多機能の子育て支援拠点です。子育て支援拠点が1か所しかないということが、デメリットというほどではないかもしませんが、その居場所が合わない人にとっては「選択をすること」の難しさもあると思います。居場所としてなぎチャイルドホームが合う人にとってはよいのですが、コミュニケーションの苦手な人の中にはなぎチャイルドホームを利用できないというケースもあります。そういう人たちをどのように支援していくのか、繋がりを作っていくのかということも課題です。

## 4) 少数ニーズの支援

子どもが小さい時は、「体重が増えない」「離乳食を食べてくれない」など、同じような悩みを持っている人が何人もいます。奈義町は、小さい町であるがゆえに、双子など多子世帯の方を繋げることの難しさや、大きくなると出てくる不登校の悩みへの支援など、少数ニーズになってしまいます。不登校の親の会もできたものの、必要な情報が行きわたっていないということも課題にあげられます。今後も少数ニーズへの対応が必要と感じています。

## 5) 産科不足の課題

奈義町には産科がありません。出産時は、隣市に30~40分かけて病院に行き、産後も病院に行くのに時間がかかる為、妊娠婦さんにとって不安な面があるのではないかと思います。母乳のことなどちょっとした悩みでも、すぐに行ける距離に病院があれば相談しやすいのではないかなど距離的な大変さがあるということを感じています。

## 課題

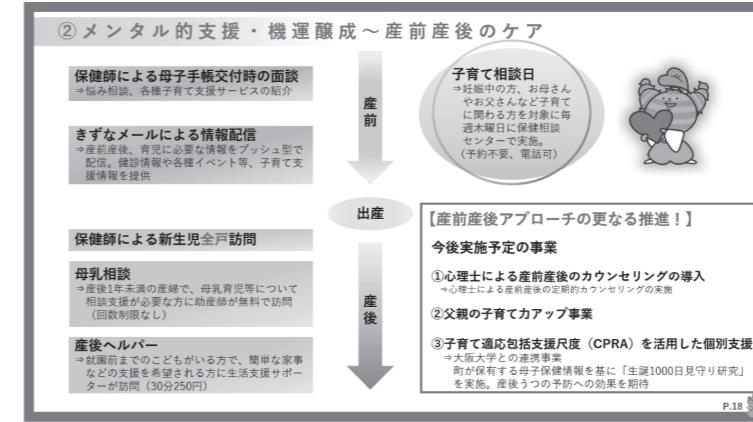
- ①お母さんのメンタルヘルス
- ②外国人の方の子育て支援
- ③居場所がないお母さんの支援
- ④少数ニーズ
- ⑤町内に産科がない



## 奈義町の主な子育て支援施策



P.17



P.18



P.19



P.21

## 第2セッション

NPO法人  
アンジュ・マンの取り組み

## 豊後高田市の概要

大分県全体の総人口約110万人。出生数は県のホームページで、令和3年・約7300人。ついに1万人を切ったといわれています。合計特殊出生数は、令和3年で1.54。なごチャイルドホームのような拠点は大分県内では76か所、ファミリーサポートは17か所、病児・病後児保育施設は29か所あります。

豊後高田市は、令和5年9月現在人口2万5000人。年間出生数は、令和元年度の126人から150人、169人と地道に上がってきています。残念ながら令和4年度は119人と下がったものの、令和5年度は少し上がっていくのではないかという見通しがあります。

豊後高田市には、さまざまな経済的支援があります。まず、0歳から中学生まで給食無料、高校生までの医療費無料、市内の保育園・保育料完全無料や市内の公立幼稚園の授業料

NPO法人  
アンジュ・マン  
代表  
小川 由美



## アンジュ・マンの子育て支援

アンジュ・マンとは、子育て広場で出会ったママたちが、子育てや子どもを通してできたサークルをNPO法人化してきた団体です。市の行政が入っているため、母子手帳の交付や保育園の相談など、ワンストップで行えます。さらにコンシェルジュがいたり入り口には温泉があるなど少しユニークな場所でもあります。元々高齢者向けの場所を子育てに利用しようということから、シンプルにワンストップでできる場所にしています。土曜日や日曜日も開いている拠点もあり、父親の利用もとても増えています。この拠点を中心に、利用者支援事業や相談機能等を一手に引き受けて、子育て中26人のスタッフで運営しています。



多機能型支援施設ということで、拠点を利用しながら、安心して預けられるかどうかを確認できたり、プレママ講座・プレパパ講座を通じて拠点を利用し始めたり、また、病気のお子さんがいれば、病後児保育の方に一時預かりからスライドをするなど、まさに機能を特徴として、見慣れている場所で、見慣れているスタッフが行うことが、「顔が見える関係性」という安心につながるのではないかと考えています。

私たちは、自分がいていいんだと思える居場所つくりのため、安心や伴走は大事だと思い活動しています。



## 地域子育て支援拠点『花っこルーム』3拠点

【土曜日・日曜日は、平日保育所などに通所している保護者やお子さんがたくさん来てくれます】



花っこルーム高田

月～土曜日、9時～16時開所



花っこルーム真玉

月～土曜日、10時～16時開所



花っこルーム香々地

火～日曜日、10時～16時開所

特に日曜日はパパの利用も増えてきています。  
開所日の工夫やプログラムの大切さを痛感!

## 子育てに安心とは…

【子どもの気持ちを大切にしながら子育てしている人を支える】

- ★安心・安全・安定の居場所をつくる 【受容】
- ★手助けしてくれる人がいるという安心感【おまもりのように】
- ★様々な地域資源とつながる関係性づくり【つながり】
- ★自己決定の尊重と信じる力・待つ力 【伴走型】
- ★気にかけてくれる人がいるということ【無関心は最大の敵】

自分がいていいんだという居場所があること  
自分が話していいという人がいること

## 第2セッション

## ブリッジウェルの取り組み

(株)ブリッジウェル  
代表取締役  
筒井 訓章



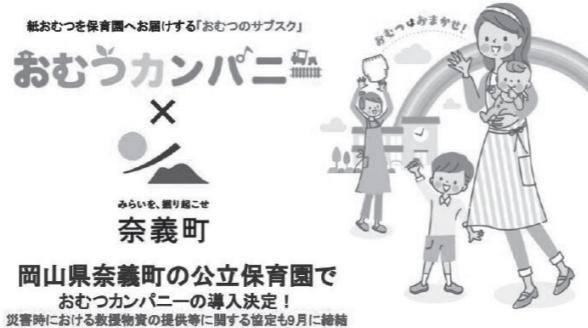
## 事業について

保育園向けにおむつのサブスクサービスを提供している企業です。一般の方に、保育園でオムツをどうしているかという質問した時に、ほとんどの方は認識がないが、実際は保護者がオムツを持参していることがほとんどです。保護者が持参するにあたり、おむつに1枚ずつ名前を書いたり、0歳児であれば、1日10枚以上の数が必要で、そのために買いに行くなどの手間や時間がかかるが、そこを解消するために、ブリッジウェルでは、保育園に直接オムツを届けるサービスをしています。

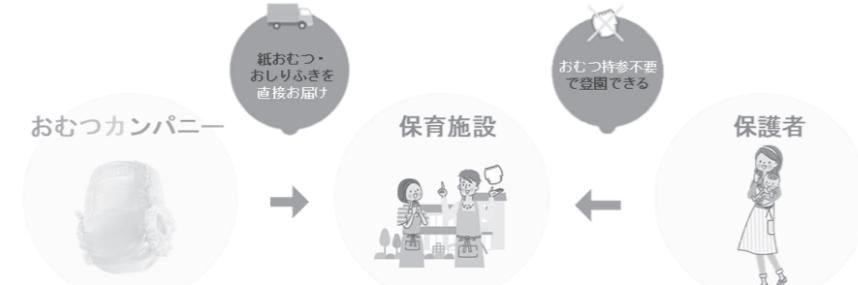
子育ての常識は日々、変化していると感じます。オムツは育児を行う保護者が準備すべきだとお考えの園の先生がいらしたので、なぜそう思うのか一歩踏み込んで聞きました。その先生の回答は、親への指導、教育のことでした。そのようなご意見があることに対して、間違いではないと

思っていますが、保護者の意見としては、「一秒でも長く子どもと一緒にいたい」という思いがあります。その思いのなかで、このようなサービスを行っております。

日々、子育ての常識が変わることで、我々のサービスも変わってくると思います。何が正しいのか、このような共有する場などで議論を続けていくことが非常に重要と考えています。



**(株)ブリッジウェル**はおむつサブスク「おむつかンパニー」を通じて、保護者・保育士の負担軽減  
おむつかンパニーの導入において災害時協力協定を締結し、有事におけるオムツ等の無償開放を実現  
おむつサブスク「おむつかンパニー」は月額2,290円(税込)で保育園でオムツが使い放題です



※奈義町では災害時救援物資協定を締結し、園の在庫しているおむつ等の町民への無償開放しています

## 現状の課題

- おむつ管理は育児の1つのため、「育児を行う保護者が準備すべき」という考えが残っていること
- おむつを持って行くことが慣習化しており、保護者は負担が減るというイメージがないこと
- 保護者が全員加入をしなければ、保育現場の負担軽減につながらないこと

## 第2セッション

## 大阪大学の取り組み

大阪大学大学院医学系研究科  
保健学専攻生命育成看護科学講座  
教授  
遠藤 誠之



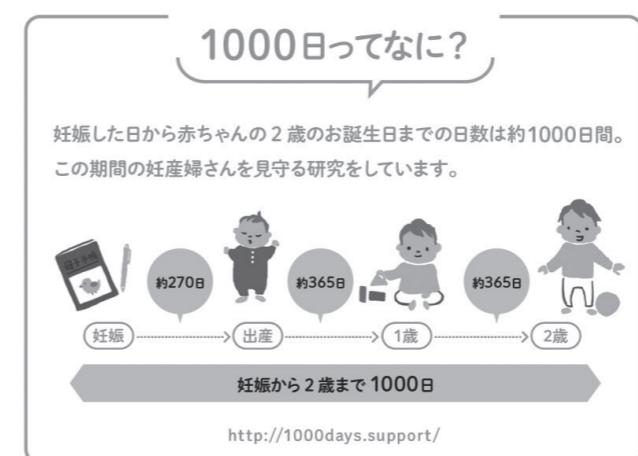
## Society5.0 子育て支援

地域差はありますが、核家族化や少子化が進む現在、夫や親族の協力も得られず、近所との付き合いもなく、孤立した中で母親が子どもを育てている所謂「孤育て」家庭が多いことが社会課題になっています。

子育てに対する不安感を低減することで、子育てに自信をなくした母親自身の子育てに対するレジリエンスを高め、本来持っている力を底上げするとともに、地域特性に応じて周囲の支援者がかかわる新たな手法の開発が重要となっています。

私たち、大阪大学の生誕1000日見守りプロジェクトチームは、臨床医学から看護学、心理学、情報科学、統計学、AI、文化人類学など幅広い分野の研究者が連携した多分野融合型の研究チームです。バーチャルの世界とリアルの世界をうまく融合した次世代社会、Society5.0(ソサイエティー5.0)の社会、に向けて、新たな視点から、子育てをしやすい社会の実現を目指して研究をすすめています。

例えば奈義町の保健師さんから、「近くに専門家(小児科医や産婦人科医)がないので、ちょっとしたことが聞けない」という課題があると聞きました。



大阪大学大学院医学系研究科

保健学専攻生命育成看護科学講座

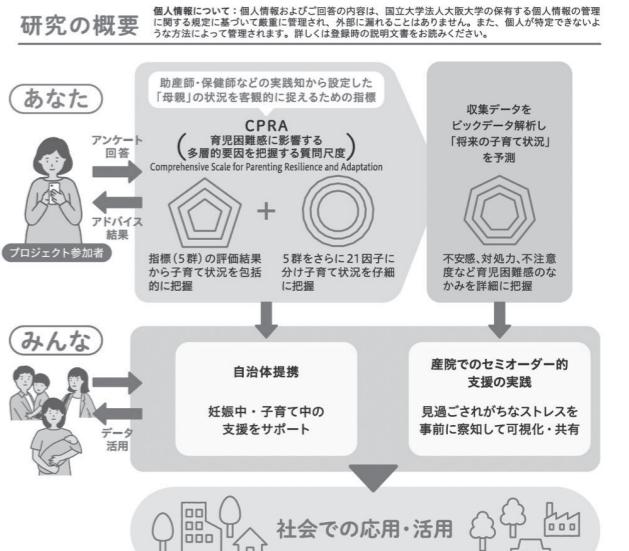
教授

遠藤 誠之

その課題に対して、リアルの世界で解決することは難しいですが、バーチャルの世界をうまく活用することで、課題解決につなげることができないか?また、「母親」ひとりひとり、育児で困ることは異なります。そこで、「母親」ひとりひとりの状況を客観的に捉えるための指標を活用することで、実際にその「母親」が育児で困る前に、それを予測して、予防することができないか?バーチャルの世界とリアルの世界をうまく融合したサイバーフィジカルな育児支援ツールの開発を目指しています。

## 子育てに安心を

また、「子育てに安心を」と言った時に、対象者は2つあると思いました。1つは、実際に子どもを持っている親。もう1つには、まだ子どもっていない人。これから親になる可能性のある人。対象者によって、サポートの方法が変わってくるのではないか?心理的なサポートに加えて、経済的なサポート、社会的なサポートなど、自治体、企業、NPOなど社会全体で考えていく必要があると思います。



## 第2セッション

## なぎチャイルドホームの取り組み

## なぎチャイルドホームについて

子育てサポート『スマイル』という町民同士の助け合いの事業があります。

この中で、自主保育「たけの子」という活動を平成28年ぐらいから始めています。当時は、子育て施策などが充実し、働きやすい町の雰囲気が浸透してきた頃でした。なぎチャイルドホームの広場に遊びに来る親子さんたちが少しずつ減り、2歳から3歳ぐらいになる子どもをもつお母さんが子どもの遊び相手を求めるものの、自分の時間で自由に入りできる広場には同じぐらいの子がいつも居るとはかぎらず、「子どもの遊び相手をどうやって見つけたらよいか」「働かないと一人置いていかれている気がする」といった悩みや相談を多く聞くようになりました。下に赤ちゃんがいたり、妊娠中のため今すぐは働けない状況にあっても、子どもにとって良い時間を過ごさせてあげたいというお母さんたちの思いから、自主保育「たけの子」を始めました。

スタート時は、週2回の活動を保育士と当事者の保護者と一緒に当番を組みながら、保護者が毎日活動に参加するのではなく、当番の時には保護者であり、みんなの保育者でもあるような形で、一緒に保育をつくっていく活動をしていました。

現在は、火曜～金曜の4日間の活動の中で、地域住民、先輩ママにサポートをいただき、一緒にお昼ごはんを食べる時間やアトリエの活動、町内の自然を散策したり農業体験なども行っています。秋の登山は、那岐山を案内してくれる地元のお父さんと一緒にに行う恒例行事です。

この取り組みは、保護者のこころの安心に繋がっていると思います。ただ広場に遊びに来て帰るだけでは、そこからの友達づくりや少し踏み込んだ関係づくりに広げていくことの難しさを感じていました。親子に所属があることで、毎日仲間と会えたり、山や自然の中に友達と一緒に出掛ける機会をもてたり、大人も自分の子どもだけを見るのではなく、みんなと一緒に



奈義町 なぎチャイルドホーム  
子育てアドバイザー  
貝原 博子



## 基調講演



## 奈義町子育て支援施策紹介

大阪大学  
生誕1000日見守り研究紹介

## なぎチャイルドホーム視察



## 奈義しごとえん視察



## 分科会報告



## 課題

- ①親子を取り巻く社会変化への対応
- ②自治体の規模にあわせた方法
- ③地域の年にいてさんとのご縁むすび
- ④新しい認定こども園との連携

